日本共産党
流山深井後援会

ニュースあすなろ

14年11月15日
第189号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
(部内資料)

安倍政権の暴走に審判を！

市民の願いが市政を動かす

10月26日江戸川台東自治会館で第14回植田和子議会報告会が行われました。植田市議は、9月議会の特徴として集団的自衛権の問題や消費税の問題など、国政の問題も議論されたことをあげ、「日本が重大な岐路に立っている情勢の反映といえるでしょう。」と論戦について報告しました。

報告の要旨です。

9月議会での日本共産党の論戦で大きな意義があった点の一番目は、流山市が自衛隊に今年18歳と22歳になる男女の名簿を提供していたという問題でした。（9月のニュースで既報）他党議員の多くは知らなかったようでした。乾団長が当局を追及し、市長は「来年度から慎重に判断する」と答弁。乾議員の一般質問終了後、再度抗議をした植田議員に「来年度から提供しない方向で」と担当部長は言っていました。

二番目にくらしと地域経済、医療に関する成果です。住宅リフォーム助成制度について、市長が初めてこの制度は「役に立つと思う」と良さを認める答弁をした事です。流山市が進める住宅住み替え制度が期待したように進んでいない実情の打開につながれば大きな成果になります。

また、子どもの甲状腺エコー検査の一部助成も議会の総意があれば重く受け止めるという市長の答弁も引き出すことができました。さらに放射能汚染問題で、汚染されていない水の確保の重要性が浮き彫りになった3年前。事故発生前の計画だった東部浄水場の廃止は見直すと当局が公の場で明言するなど、平和・くらしの問題で、日本共産党の論戦が貴重な成果を収めました。

植田和子市議会議員

議会報告する植田和子市議

弱い者いじめNO

国が進める「子ども子育て支援新制度」により、子どもの安全や健やかな成長を確保する点から、大きな問題が起きていること、福祉手当の見直し（既報）など問題が山積しています。

安倍暴走に怒りの集会

「戦争させない・九条壊すな！11・11国会包囲総行動」に参加しました。柏駅で集まり、国会議事堂前駅から首相官邸前の集会へ。政党や弁護士、マスコミなどの様々な立場の方が怒りの挨拶。そこへ右翼が荷台の全面に高く大きなボードを張り付けた大型トラック3台が次々にやってきて「天皇陛下の……」。右翼安倍政権の下で彼らが活発化しています。

集会に参加している最中に、「安倍総理は解散、総選挙に踏み切る意向」と伝えられ、参加者の間に「エーッ！」と驚きの声があがりました。

日本共産党の井上哲士議員は「300議席を持つ与党が任期半ばで解散を口にするのは行き詰まりを示している。安倍内閣打倒の審判下そう」と挨拶。弁護士会からは「全員加入で保守も革新もいる弁護士会だが、秘密保護法には全県の弁護士会が反対している。異例の事態だ。」と安倍政権の異常を訴えました。社民党や落合恵子、鎌田慧氏などが次々挨拶。佐高信氏は「小渕などの資金疑惑だけじゃない。安倍自身の疑惑などが持ち上がって、それを隠そうと解散しようとしている。小さなことでもどんどん追及して……」とアピール。集団的自衛権、秘密保護法、原発再稼働と安倍内閣の暴走は目に余る。これほど国民の願いに反することを次々に行う内閣は今までない。「歴代最悪の内閣」をそれぞれの立場で批判しました。

「安倍やめろ！」のシュプレヒコール。途中で警備の警官が「道路に立ち止まると交通の妨げに……」などと明らかに挨拶のマイクを妨害する警告をし始めました。「邪魔をするな！」と抗議すると参加者が次々に「そうだ、何が邪魔だ」と抗議。若い警官は黙ってしまいました。挑発に乗った行動はよくないですが、正当な抗議はきちんとすべきでしょう。彼らも義務的に言っているだけでいさか後ろめたいのではないのでしょうか。（石）

原発から撤退 たたかう原発ゼロ！！

支え合う活動も注視

そして、地域支え合い活動推進条例については、本人の同意があればの条件付で、自治会・民生委員・消防・警察が一体となり見守り、日常だけでなく災害時の避難など援助をする。そのための名簿作成も情報流出防止の努力をする事も明記されていたので日本共産党も賛成し、全会一致で可決・成立しました。個人情報が本当に守れるのか皆さんと共に注視していきたいと考えています。と、報告を締めました。

こんにちは　植田和子です

11月1日　10月17日（金）福祉手当て見直しに関する説明会に参加してきました。

広報で会場は文化会館、となっていましたが、中央公民館でとの職員の説明。最初から、私の怒りをかいました！

市民を混乱させた執行部に抗議しました。（冒頭で、執行部はみなさん謝罪しましたか。）

説明会には、障害者の方はもちろんですが、たくさんの方が参加されていました。

執行部の説明は、最後まで市民の方々の理解は得られず（当然ですが）、次々と反対意見が出され、説明会というより、討論会になっていました。

とくに、障害者の方からの訴えは、聞いてて、涙が出そうになりました。障害者の手当を減らして、障害者のグループホームをつくる、なんて説明は、障害者予算の中で、ぐるぐる回してるだけで、障害者同士の対立にもなりかねない、こんな汚いやり方、絶対許せません！

3年間の削減で、浮くお金は、たしか2億8000万円くらい、との説明でしたが、執行部は、この金額で、グループホームを、いくつ建てるつもりなんでしょ……いや、1つも建てられないでしょう！死に金になるのは間違いありません。

今の福祉手当ては、そのまま残して、新たにグループホーム建設のための予算を増やすべきなのに、なんでわからないんでしょ！

怒り倍増で、説明会を後にしました。

ヘッドライト

小笠原沖の赤サンゴが中国漁船に密猟され、連日テレビなどが報道している。小笠原の人たちが資源保護のために様々な制限をしているのに、けた違いに大型の漁船で網を引きずり、根こそぎさらっていく乱暴さだ▼中国では朱色は伝統的に高貴な色として尊重され宮殿などでも多く使われる。経済発展で超富裕層が生まれ、金にあかせて高級品を買いあさるため宝石などの価格が高騰しているのだ▼小さな島国の日本は長い海岸線を持ち、豊富な資源を持つ。海底の金属や油田、ナマコや昆布などの海産物は守られているのか。赤サンゴが密猟され危機的なことは事実だ。だが、問題はサンゴだけではない▼これらを保護するためには数隻の海上警備艇で守れるはずはない。体制の強化は必要だ。しかしいかに警備艇を増やそうと北海道から沖縄まで完璧な警備などありえない。それだけでなく資源保護と違法取り締まりの国際的な協力体制の構築が不可欠だ。サンゴの危険だけをあおって報道するマスコミの姿勢は異常だ。まるで安倍政権の「切れ目なき安全保障」などの軍備強化一本槍の応援団のあやうさがある。